

(株)うちだ自然農場

久留米市

消費者の方に喜んでもらえるよう
品質・食味にはとことん
こだわってます

有機JASマークの付いた
いちごが目印

(株)うちだ自然農場は、親会社であるベストアメニティ株式会社の農業部門として2016年（平成28年）に設立。

ベストアメニティでは設立以前より、自社農園にて作物を作っていましたが、会社の方針で2008年（平成20年）から無農薬・無化学肥料での栽培に取り組むようになったとのこと。2012年（平成24年）にハウス4棟（4a）でいちごの生産を無農薬・無化学肥料で開始。試行錯誤の末、使用出来る農業資材がある有機栽培へ移行し、遂に当時県内では初、全国でも数例しかない、いちご「あまおう」の有機JAS認証を2016年（平成28年）に取得しました。現在はハウス6棟（20a）まで増やして栽培。

いちごのほか、甘藷、米、麦、大豆、雑穀、椎茸、ニンニク、ドクダミなど栽培しています。

株式会社うちだ自然農場

栽培品目: いちご(ハウス)、甘藷、米、麦、大豆、雑穀
(エゴマ、キビ、アワ、ヒエ、タカキビ等)、椎茸、ニンニク、
ドクダミ等

経営面積: 福岡県: 5.43ha(1.21ha有機JAS)

熊本県: 3.63ha(2.27ha有機JAS)

大分県: 0.7ha

販路: 直売所(みづまの駅など)、通販、グループ会社
(加工用)



有機栽培の概要

1. 有機栽培の取組

栽培技術は、有機栽培農家（熊本県湯前町MOA）等へ視察に出向き、独自で習得。元々レベルが高い無農薬・無化学肥料栽培を行い、雑穀残渣、米ぬか、粃ガラ、竹酢液、バーク堆肥等で土壌改良していたため、スムーズに有機栽培へ移行し、いちごの有機JAS認証を取得しました。

害虫対策について、農薬をまくことができないためハウス4棟の害虫をピンセットで取って駆除することが大変とのこと。また「有機栽培では、苗を健全に育てることで圃場に定植しても病気が出ない」とのこと。最盛期にはベトナム人技能実習生を雇用し対応しています。

いちごの摘果作業中
「高設栽培なので作業が楽です」!(^^)!

2. こだわりポイント

有機いちご「あまおう」は、当初、土耕栽培でスタートしましたが、作業時の体への負担が大きいため、自分達に合わせてカスタマイズ出来て、設置に係る経費削減を図ることができる自作の高施設を製作し栽培しています。株間を25cmと広く開け20aに苗8,000～9,000本と慣行栽培（土耕栽培）の約半分の苗数にすることで、収量より品質の安定と作業効率を優先しました。



経営面の取組・工夫

栽培するいちごの品種は「あまおう」のみで、収穫期は12月末から4月末頃まで行っています。栽培期間を長くし、暖房機器による加温を行わず、花が咲いて実になるまでを、特に気温の低い時期では最長40日程度かけ育て、甘味と程よい酸味が出る様に完熟させ出荷販売。そのため収穫後の日持ちは4日が限度。食味優先のため敢えて販売価格が高くなるクリスマス時期の販売はしていません。価格は年間通じて一定価格で販売しています。

以前は色々な品種を栽培して比較していましたが、有機JAS取得後は、甘みと酸味のバランスが優れた「あまおう」のみの栽培としました。

慣行栽培よりも収穫期間が短く、収穫期後半は試食して少しでも食味が落ちれば直売所へは出荷を止め、グループ会社の加工工場（グループ会社製品：あまおういちごみるくのもと）へ出荷しています。こうすることで、拘って栽培した生鮮いちご本来の品質と食味を消費者に味わって欲しいとのこと。



「福岡県産あまおういちごミルクのもと」は（写真は(株)うちだ自然農場提供）
ベストアメニティ株式会社から販売

今後の展開

グルテンフリー麦の栽培、6次化の計画（ジャム、調味料）、グループ企業と合同でいちごの海外輸出計画、雑穀の品種生産拡大、グループ企業に製造委託した、芋焼酎、清酒の販売などを考えています。

有機いちご栽培にかけるうちだ自然農場の思いが消費者へ広く伝わるよう、今後の展開が期待されます。

もっと聞いてみました！

Q. 有機農業をされていて良かったことは？

A. 害虫駆除、施肥設計等慣行栽培と比較して手間がかかります。ただ、「同等品種と比べて有機農産物の方が美味しいから有機JASマークの付いたものを買うようにする」と、価格が高くても購入者（リピーター）に喜んでもらえることが何よりも嬉しいです。



有機JASいちごの
パック販売

（写真は(株)うちだ自然農場提供）



いちご栽培の高施設（自作）

Q. 設備へのこだわりは？

A. 当社のいちご栽培の高施設は既製の施設ではなく、他県の会社が普及センターの職員から指導を受けて作ったトマト栽培用の高施設を参考に、土の量や高さをイチゴ仕様に改良し自分達で製作しました。通常、高施設は10aで600万円程度費用が掛かりますが、20aで100万円程度の低コストで整備することが出来ました。

Q. 有機農業で困っていることは？

A. 慣行栽培に比べて収量が少なく、有機肥料等は値段も高く、使用量も多くなることから売上に比べ経費が余計に掛かることです。



取材時のハウスの様子(12月上旬)